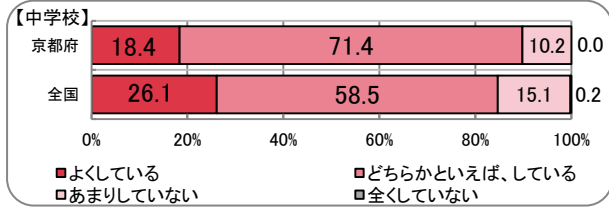
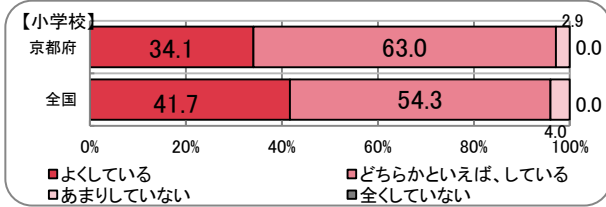


(7) 教員研修・教職員の取組

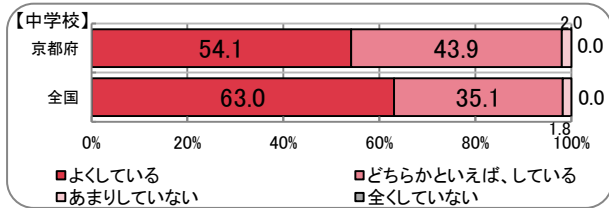
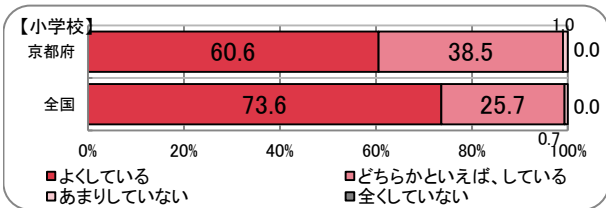
京都府のデータは京都市を除いています

Q1～4は便宜上の番号であり、実際の質問番号はP60参照

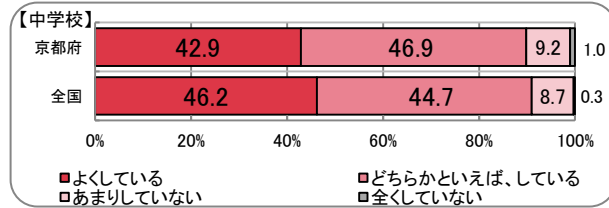
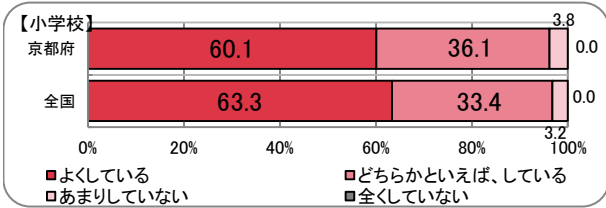
Q1: 指導計画の作成に当たっては、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせていますか。



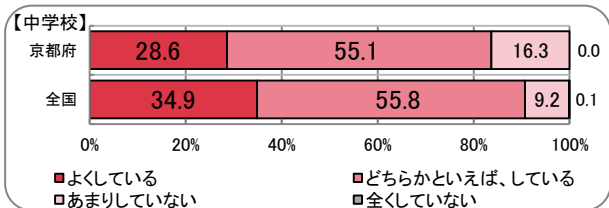
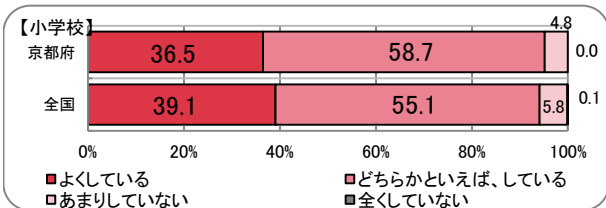
Q2: 校長のリーダーシップのもと、研修リーダー等を校内に設け、校内研修の実施計画を整備するなど、組織的、継続的な研修を行っていますか。



Q3: 模擬授業や事例研究など、実践的な研修を行っていますか。



Q4: 言語活動について、国語科だけではなく、各教科、道徳、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて、学校全体として取り組んでいますか。



分析 Q1「外部の資源の活用」はカリキュラム・マネジメントに関わる質問であり、今後の改善が期待される。Q2・3は校内研修に関わる項目であり、特にQ3「実践的な研修」は、工夫しながら増やしていきたい研修である。今回質問項目にはないが、「校内授業研究の実施回数」は、京都府は特に中学校では全国平均よりも回数が少ない傾向があり、併せて改善が望まれる。Q4「言語活動の学校全体の取組」の肯定的回答の割合も京都府は全国平均よりも低い傾向がある。教科横断的な指導はQ1とともにカリキュラム・マネジメントに関わるので、改善が望まれる。